114
A2261
1

謹テ裁シ参議大隈重信公ノ閣下ニ上呈ス

本年一月十八日及ヒ二十七日温容ヲ拝シ内願ノ旨趣ヲ吐露シタルニ不肖モ懇篤ノ示ヲ蒙リ胸中ノ鬱悶忽チ氷釋スルヲ得テ踊躍感佩ノ至リニ堪ヘス抑モ栄辱毀誉ノ人ヲ戒ムル深ノ士ニ非ルヨリ之カ為メニ其心思ヲ缺カサルヲ得ンヤ閣下幸ニ其微衷ヲ度外ニ擲棄スルヲ得ンヤ閣下幸ニ其微衷ヲ抽キ棄ス之ヲ刮故無用ノ地ニ之ヲ勉励致力ノ所ニ

大正十一年一月
大隈侯爵邸寄贈
3307

就カシノヽ人オヲ棄ナルノ厚トニ沈
レハ何ヲ以テカ之ヲ得ンヤ敬直陸軍省ニ奉リ
スル茲ニ数年現今鼎従六位官六等ニ至ル敬直
ノ業才公間ヨリ餘アリ敬直常ニ以為ク其効メ
筮仕ノ官廳ヲ終焉ノ地ト定メ毫モ他
念慮ヲ起サス甚ヘ難キノ艱難ニ堪ヘ忍ヒ難キ
ノ辛苦ニ忍ハサル可ラス然ラサレハ精神ノ存
ラナラサル功効モ亦従テ少シト故ニ初度解裾
ノ地ニ於始スルハ素ヨリ敬直ノ宿志ニシテ

目ヨリ強壮ナラス故ニ郡県洛両ノ戰地ニ在リテハ現ニ病病ニ罹リシハ二回ナリシヲ聖顧ニサリシ

公務上苟クモ胸ニ
浮ムモノハ細大洩サス誘ヒ相論辨シ其間種々
ノ苦節ニ遭遇スルモ敢テ撓屈セス偶他人博
身ヲ誘フモノアルモ毫モ志ヲ動カスフナシ
我本務ニ汲々タリシ今ヤ斯多年微
躬ヲ去テ閣下ニ請フアルヒノハ啻ニ設
自ラ居ルニ堪ヘサルノミナラス更ニ其事
由アルカ故ニ敬直ノ決心内ニ起ル所ノモノ
而シテ其之ヲ致スノ所由ヲ詳カニ陳述セント

欲スルモ或ハ人ヲ誣
誣ヲ来スヲ免カレス況ヤ閣下鑒識ノ明自ラ
リ洞察セラルヘキヲ以テ亦何ソ區々ノ辯言ヲ
要セン乎敬直反カニ聞ク閣下去月十一日汝北
ニ赴カントスルノ際故アリテ十八
ラレタリ然ルニ急務ノ事頃未タ果サヽレ故カ
又更ニ訖日ヲ延引セラレテ其期日ヲ確定セサ
リシトモ此説ヲシテ信ナラシメハ曾テ内諭
セラレタル條例其他ノ更定蓋シ近キニアナ

ラント想像セリ果シテ然ルキハ過日據陳ノ
如ク敬直轉身ノ一ヲ豫メ我カ長官ニ告ケサル
ハ中途或ハ支障ノ議ヲ生セン乎ヲ忍ルヽカ故
敢テ清閑ヲ累シ再ヒ趨庭其如何ヲ窺ハントスル
シタルニ同月一日以降寒冒熱ヽ罹リ
能ハス故ニ同月十九日林友幸氏
ノ内意ヲ窺ハシメタルニ改正ノ期
敬直ニ内意ヲ示サレ然ル後ヲ陸軍省ヘ乙然照
會スヘキヲ以テ暫ク待ツヘシ其期ハ蓋シ同月

ノ末ニアラントノ旨趣ヲ傳聞シ心中益閣下ノ
鴻恩ヲ謝シ弥安然トシテ只内命ノ到ルヲ待ツ
タリシ然ルニ同月二十九日ノ新聞紙ニ岩倉
録ニ内リ内閣ト各省長官トノ分離ヲ見テ俄ニ
ノ思想ヲ起シタリ内閣ニ変更アルヘキ
年一月以降既ニ累世上ニ漏ルヽモノ少シ
テ遂カニ此議ノ発セシヽハ恐ルヘシ閣下ノ
進會ニ赴カルヽヲ躊躇セシモ蓋シ亦是等ノ議
ヽ内リシモノニシテ去月十九日林友幸氏ト

意ヲ示サレシル件ハ業既ニ決議ニ至リニ十八
ランカ是ニ内ラ右レハ閣下ノ兼任ヲ罷メテ専
ラ内閣ニ入ラルハ豫メ期セラルヽ所ニシテ然
カモ友幸氏ヘ内示セラルヽ云々アルヘキ
改革ハ閣下ノ能離ニ拘ラス到底
可キヲ信スルナリ果シテ然ラハ敬直誠ノ門
ニ於テ期既ニ迫キニアラン既ニシテ又之ヲ思
フ分離ノ議ハ曾テ定ルモ之ヲ断行スルニ決
クルハ去月十九日ノ後ニアランカモシ亦此ノ

如ノナラシメハ閣下内閣ニ入リ省卿別ニ其人
アリ閣下友幸氏ニ内示セラルヽ一段急未タ
スヘカラス敬直ノ志願モ或ハ奏達
又以為ク閣下ノ大藏卿兼任ノ件敬直ヲ
劇有為ノ地ニ就カシメントト欲スルノ
敬直之ヲ肺肝ニ銘ス敬直黙シテ再ヒ言ハ
閣下豈棄テラレンヤ幸ニ現任ノ大藏卿ヘ委托
セラルヽ一アラン乎ト然レトモ是皆自己ノ想
像ニ過キサレハ趨庭拝謁ヲ乞ヒ親ク之ヲ窺ヒ
知ルニ如カサルヘシト思惟シ同日直チニ参邸
ニ到リタルニ多事ノ故ヲ以テ謝絶セラレタル
カ故ニ又本日此寸楮ヲ懐ニシテ拝趨シ閣下
幸ニ冒瀆ノ無禮ヲ叱
レハ實ニ意外ノ幸ナリ仍テ過ヒ百
起念ノ堅畧ヲ再申シ併セテ此事ヲ懇願スル如
斯誓首再拝

明治十三年三月五日

牛込津久戸前五十番地

石川敬直

414
A2261
2

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

隻翼ヲ能ハス隻輪行ク可ラス大藏省有リテ
會計檢査院無カル可ラサルハ亦猶斯ノ如キ半
故ニ早晩議院ノ設置アル可シトハ本年一月十
八日溫容ヲ拜スルノ際其端緒ヲ開申セ
果シテ議院ノ創立ヲ見ルハ眞ニ歡喜ニ堪ヘ
ナリ請フ先ツ議院省ノ生質ト權限ノ概畧トヲ
簡短ニ陳述シ然ル後チ敬直ナ熱心弥凝テ止マ
カレ所以ヲ吐露シ又閣下ノ清懷ヲ累サント
欲ス夫レ大藏省ナルモノハ實ニ全國ノ經濟ヲ

掌握シ百般ノ財政ヲ行フ所ニシテ其事務ノ繁
庶ヲ極ルヤ素ヨリ常トス況ヤ維新以降國費多
端入ルモノハ以テ出スヲ償フニ足ラサルコト多
年ニシテ財政上ニ一大困難ヲ生シタル今日ニ
於テヲヤ該省ノ煩労多事ナル真ニ思フヘシ可
ノ般アリテ子能ク理財ノ検査ヲ為スヲ得ヘ
否検査ヲ為スヲ得サルノミニ非ス経理行政官
ノ検査ス可キモノニ非ル可シ（旧検査局ハ単ナル精算局ト見做ス）會計検
査院ハ創立ノ日尚浅ク未タ其章程等ノ発行ナ
キヲ以テ素ヨリ其綱目ヲ知ルニ由シ無シト雖
モ其大主眼ヲ臆測スルニ蓋シ財政上ノ枢機ヲ
査覈スルノ特権ヲ有シ大蔵省ノ経済行政ト検
査院ノ財政検査ト相對峙セシメ財務上始ヨリ
其全キヲ得ルモノナラン子故ニ該院者ノ事務
ヲ外部ノ皮相ヨリ見ルトキハ殆ト一途ニ帰スル
カ如シト雖モ内部ノ精神ノ大ニ相異ルハ恰モ
立法行政ノ二大権ノ分離セサル可ラサルカ如
クニシテ又其容附ノ関係ヲ有スルヤ鳥ノ両翼

京ノ両輪ニ齊キモノト言サル可ラス又検査官職務ノ一端ヲ推考スルニ蓋シ各自擔任ノ官衙ニ就テ官省使庁県ヲ数ヒ分ナ分モノト見做シ理財上ノ如何ヲ照査シ其事由ヲ院長ニ具申スル等實ニ會計ノ要地ニ立テ頗ル其志ヲ伸ルヲ得可キモノヽ如ニ豈吏員ノ榮誉ト言サル可シヤ茲ヲ以テ敬直ノ志願ト同ク検査官タルヲ切望スル者世間往々アルナラント想像セリ然ラハ則チ此重任ヲ負擔セムルノ人ヲ撰挙スルニハ志願者中更ニ其適当ナル者ヲ採用セラル可キカ故ニ豫メ其人ヲ決定スルヿ能ハサル可シ本月十四日拝趨ノ日数直ノ志願モ大約六週日ヲ経サレハ其成否ヲ定メ難シトノ告示ヲ蒙リタルモ抑モ亦茲ニ出ルモノ乎是ニ於テ敬直ノ胸間益迫リ熱心殆ト疑テ暫時モ之ヲ忘ルヽノ暇ナク指ヲ屈シテ時期ノ到ルヲ數ヘ又窃ニ願望ノ遠邁ニ属スルヿヲ有ノ子ト恐レ心中ノ蔭闇ハ實ニ名状ス可キニ洩ルヿリ

閣下或ハ言ン汝ノ言フ所ハ到底自

己ノ進退ニ止ルナリ貴重ノ精神ヲ斯ノ如キ細
事ニ労スルヲ休ノヨ成否ハ命ナリ叨リニ苦辛
ヲナスモ果シテ何ノ益カアランヤト敬直亦
實ニ然リト思惟セリ思フテ而シテ此無益ノ辛
労ヲナスハ真ニ至愚タルヲ免レスト雖トモ其地
位ニ安ンシテ毀誉栄辱ヲ度外ニ置ノ量ニ足
キハ亦如何トモスルヿ能ハス加之一技ノ以テ
長ス可キ無ク一術ノ以テ専ラナルモノ無シ今
ヤ自ラ其鈍劣不肖ヲ顧ミスシテ叨リニ舊テ撿
査官ノ重任ヲ請願スルハ頗ル慚愧畏縮ノ情ニ
堪ストモ然レトモ其之カ重任ヲ得テ奮進為
スアラント欲スル精神ノ彌堅固ナルニ至リテ
ハ敢テ他人ニ向テ一歩ヲ譲ラサルハ自ラ信シ
テ自ラ疑ハサル所ナリ故ニ幸ニ敬直ノ素願貫
徹スルヲ得ハ愚今速功ヲ奏スルヿ能ハサルモ
将来必ス閣下鑒識ノ明ニ肯カスシテ聊ノ裨
益スル所アラントスルモ亦自ラ信スルヲ以テ
屢閣下ニ懇請シテ止マサル所以也斯ノ如ク

自ラ信スルノ厚キモ詳カニ其委曲ヲ陳述セサ
レハ　閣下ヲシテ之ヲ信セシヤ故ニ去日趨
庭杆詣ノ際滿胸ノ思想ヲ吐露セントスルニ
ニ中心窃ニ尊嚴ヲ憚リテ遂ニ之ヲ辨明スル
能ハサリシカ故ニ今茲ニ書ヲ以テ言ハント欲ス
ルモ拙陋ノ冗文亦意ヲ盡スニ足ラス請フ
閣下ノ明察アランコトヲ敬直窃ニ以為ラク有為ノ
志士モ終ニ其志ヲ展ルヿ能ハスシテ沈滯輒軻
スル者古今其例尠シトセス蓋シ在上ノ人之ヲ
撰拔セサルニ出ス悻々自ラ好ミシ敢テ上ニ向
テ請求セサルノ過ナリ敬直素ヨリ有為ノオヲ
具スル者ニアラスト雖モ其志ニ至テハ金石モ
亦以テ之ヲ貫ントス願クハ　閣下特ニ敬直ノ
篤志ヲ嘉シ自ラ薦ムルノ事ヲ以テ之ヲ卑陋
トセス檢査院事務章程ノ癸行ト共ニ採用アラ
ンコトヲ敬直魯鈍ト雖モ刻苦勉励以テ其職ヲ盡
シ　閣下ノ尊名ヲ失墜セサルハ敢テ誓テ忘レ
サル所ナリ慚愧誠恐ニ至リニ堪ス

明治十三年三月二十六日

参議大隈重信殿

牛込筆土前町十番地

石川敬直